

つくろう 伸ばそう 鹿沼の文化

かぬま文化

No.164

発行人 鹿沼市文化協会
 発行責任者 会長 山菅 昭八
 編集委員会 委員長 鈴木 貢
 印刷所 晃南印刷(株)

鹿沼市文化協会「平成」最後の新年会 3名の受章者のお祝いも盛大に！

平成31年1月19日、

福田屋コンベンション

ホールにて、今年も恒例

となった文化協会の新

年会が盛大に開催され

ました。今年は、木村

剛考顧問と布川武男賛

助会員の叙勲、日笠勝

子常任理事の功労章受

章により、お三方の喜

びの受章祝賀会も兼ね

た新年会となりました。

木村顧問においては、

市内産業の振興発展に

多大な貢献をされたと

して「旭日小綬章」

が、布川賛助会員

には、長年にわた

る学校保健へのご

尽力に対し「瑞宝

双光章」が、そし

て日笠常任理事に

おいては幅広い民

謡普及活動に対し

て「民謡功労章」

がそれぞれ授与さ

れたことによるも

ので、当協会にとつ

ても非常に誇らし

く参加者84名全員

で喜びを分かち合



章者の表彰披露がされ、記念品と花束の贈呈がされました。

受章者3名を代表して、木村顧問から今回の栄誉の喜びと今後の活躍を誓う謝辞が述べられると、会場は大きな拍手に包まれました。

続いて来賓の佐藤信市長、大島久幸議長、

鹿沼史談会……………	2
かぬま川柳会……………	2
鈴懸短歌会……………	3
文化サークル「みちくさ」3	3

目次

「歌会始」入選の大賀様紹介	4
栃木県文化振興大会報告	4
編集後記……………	4

神谷幸伸県議からもそれぞれに受章を讃える言葉と新年を祝う祝辞を頂き、時間の都合でご挨拶を頂けなかった小林幹夫、松井正一両県議、福田義一副市長、高橋臣一教育長、市田登市議、福井辰次、福田康行、橋本美代子各参与の来賓紹介のあと、福井参与の乾杯で祝宴に移りました。

アトラクシオンとして、歌謡部会6名によるカラオケで場を盛り上げていただきましたが、その後も次から次へとカラオケの発表が続き、時間いっぱいまで歌声に包まれた活気あふれる祝宴となりました。



最後は、これも恒例となった「青い山脈」を全員で合唱して、鹿沼市文化協会の結束を全員で確認し、小林守副会長の閉会のことばで、平成最後となる文化協会新年会は盛会のうちにお開きとなりました。

(事務局 外山拓也)

ふるさとの歴史に親しむ

鹿沼史談会 会長 黒川 榮三

高岡正之前会長の後任です。少しでも自己紹介と会の宣伝をさせていたきます。地方の新聞社の定年を機にUターンした、今年が「年男」6度目の新前です。大所帯の上、長い伝統を有する組織ですので、就任から1年近くなる今でも少々緊張気味です。

中心事業「ふるさとめぐり」では、参加者が遺跡などを巡り、歴史の現場を確かめたり、再発見したりできます。関心の高い人にはテーマを深く掘り下げられるよう工夫しており、多岐にわたる要望に応えられると思っております。また、そんな仕組みの確立を目指しているところです。

昨年、市中心部と楡木地区で実施しました。両会場とも会員だけでなく、一般市民が目立ちました。一緒に歩いてみて、足元の文化を見直し、歴史に親しむ機会を持ちたいと望む市民が、いかに多いかを実感しました。ちなみに参加した人は2地区とも30人ほどですが、うち半分は会員以外でした。



平成 30 年9月9日 薬王寺にて

「歴史」がもてはやされ

ています。先人がどう生きたか。その証しが郷土史であり、地域の大切な宝物、誇りです。人口減少・少子高齢化時代の到来が声高に叫ばれる昨今、文化や歴史を感じながら暮らしたい、そう願う人が確実に増えた証左なのでしょう。

一方で運営に悩む団体もあります。我々は健康志向や自然保護、環境保全活動と連動させる方法で事業の融合を図れないか模索中です。各団体と共通部分の輪を広げ、打開策を探れば具体化の道も夢ではないかもしれせん。身近な地域文化や歴史をキーワードに郷土の未来を見据えたいと思うこのごろです。



平成 30 年11 月18 日 楡木宿をめぐる

冊子「川柳かぬま」と「いちごいちえ鹿沼川柳大会」

かぬま川柳会 会長 松本 とまと

2000年平成12年創立のかぬま川柳会は、来年20周年、全国へ名を馳すベテランの柳人を何人も有する、県内きつての川柳会へ成長しております。毎月、主として第3日曜日午後1時から、情報センターで川柳会を開いており、時事吟と課題吟3題、各2句吐きを宿題とし、他に席題として、当日出題される1題を2句吐きます。席題は2人選といつて、同じ句を別々の選者が選んで披露するので、選者の感性が如実に表れ、面白いと好評です。また、県内で唯一、ユーモア賞を設定、お堅いものばかりではない、クスツと笑える川柳も良しとし、明るく和やかな例会を心がけております。

例会の結果は、「川柳かぬま」として毎回、冊子に仕上げ会員へ発行して

おり、昨年夏、2000号を突破いたしました。この「川柳かぬま」は、例会の入選句と共に、「さつき抄」コーナーがあり、かぬま川柳会の核となる、会員の最新雑詠を3句ずつ掲載しております。

実は今年、鹿沼市のいちご市宣言に伴い、いちご市を全国へアピールする、協働モデル事業として、第一回「いちごいちえ鹿沼川柳大会」の開催が決定いたしました。

宇都宮市で50年続いた「雀郎祭り川柳大会」が、平成25年中止になって5年、県外の多くの川柳人に「また、栃木県で大会を」と請われていたこともあり、嬉々として引き受けたのですが、結構、大変でした。企画から栃木県・鹿沼市等へ後援依頼そ

の他諸々、初めて経験することばかりでありました。他県への選者依頼等は先輩柳人の力をお借りし、どうにか形を整えた次第です。

日程は平成31年2月23日(土)、会場は鹿沼市民文化センター多目的ギャラリィ、月刊川柳マガジン誌に広告を出したので、日本中の川柳ファンに「いちごいちえ鹿沼」を、大きくアピール出来たと自負しております。



江連白潮先生歌碑めぐり

鈴懸短歌会 小林 夏江

鈴懸短歌会の創設者江連白潮先生の歌碑は県内に13基建つ。今回は市外の歌碑6基を訪ねた。

高原山を思わせる巨大な自然石の歌碑は、冬景色に溶け込み静寂な佇まいである。

①宇都宮市瑞穂野の古刹成願寺へ。6トン

④国指定史跡の佐貫石仏へ。

余の大きな花崗岩の歌碑である。

○巨き佛大日さまの見そなはす故さと塩谷山河うるはし 白潮

○藤九郎盛長の杖の根づきしとふ成願寺銀杏樹勢衰へず 白潮

○自然石に黒御影石が嵌めこまれ、深彫りの白文字が浮き立つ。鬼怒川の川風が快い。

藤九郎盛長は、源頼朝の家来で後に「蓮西」と号した人物。気根の垂れる大銀杏が頻りに金色の葉を散らしている。

⑤先生の生家の菩提寺観音寺へ。広い墓域の入口に建つ比翼歌碑には望郷の思いが溢れる。

②茂木町能持院へ。

○巧みな滑空すとふむささびよ山のさつ夫に逢ふこと勿れ 白潮

○十五歳とを出てはや七十年須臾も忘れずその山川を 白潮

むささびの棲むという杉叢は駐車場になり藩主の墓標の大杉が冬空を突き差している。

○山河清く人情厚き夫の里観音寺の薫風歌碑を包める 桂子

③先生の故さと塩谷町の元公民館へ。

⑥最後は、鬼怒川温泉龍王峡の展望台へ。

○幼くてわが仰ぎ見し高原の山容いまもおほどかにして 白潮

○龍王峡展望のよきこに見る上つ瀬下つ瀬激つ白木綿 五龍王神社に相和し、

荘厳な空気が漂う。久しぶりに六基の歌碑を巡り、改めて先生への尊敬の念を強くした私達である。



宇都宮市 成願寺



茂木町 能持院

継続は力なり〜会誌10号発行〜

文化サークル「みちくさ」代表 鈴木 貢

文化サークル「みちくさ」は、会誌「みちくさ」10号を発行しました。

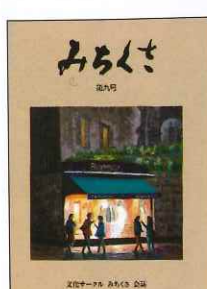
2001年に発足したサークルは、毎月の定例会で、社会の出来事や健康など身近な事について話し合っています。

年刊発行を目標にし、随筆や短編小説、俳句や短歌などを、卒業文集のように数10年を経て読み返し、自分自身の生きた証になればとの思いで綴ってきました。

今回の特集は、「人生100年時代をどう生きるか」です。

『人生100年時代をどう生きるか』で「悩む」時代をふり返って『まだまだやるぞ七十歳』随筆やボタニカルアート、俳句、短歌やヨーロッパアルプス旅行記などです。

読んで頂いた方々に共感を頂ければ次の目標である20号の発行への推進力となると信じています。



快挙の友を称う

鹿沼鈴懸短歌会 津吹 節子

この度、私達「鹿沼鈴懸短歌会」の歌友、大貫春江さんが、平成最後の歌会始に入選なされましたと、心よりお祝いの申し上げます。公募数2万1971人の中の10人とのこと、大変な快挙である。大貫さんが、わが会に入会なさったのは日も浅く、もともと粟野の会にて短歌を学ばれていたのである。そして数名の人達とわが会に入られ現在に至っている。入選歌

○分離機より光りて落ちる蜂蜜を指にからめて濃度確かむ



第43回栃木県文化振興大会

副会長 小林 守

地域文化の交流と振興を図る、恒例の栃木県の文化振興大会が去る1月30日、矢板市文化会館で開催されました。今回は市のバスを出していただ



第43回栃木県文化振興大会(矢板市文化会館)2019年1月30日(水)

慮もこれあり、早めの昼食は矢板の「ばんどう太郎矢板店」にて11時10分から、他の県南西部の市町からの大型バスや、マイクローバスなどが数台あったことが印象的でした。大会の受付・開会が正午なので、いずれもそういう時間帯になるのだなと不思議に合点しました。何を食べたか忘れませんが、バスの中では、昼食が皆さんに大好評だったと記憶しています。ウェルカムアトラクショ

者・久津美碧洋氏(89歳・書道・宇都宮市)の表彰式が執り行われました。県や県文化協会長が主催の挨拶と来賓祝辞、受賞者謝辞が続き、滞りなく式典は終了して、アトラクションでは、矢板市とくら市・高根沢町のコーラスや、塩谷町の「風見太々神楽」(県指定無形民俗文化財)がユーモアたっぷりに披露され、締めには主催地矢板の吟詠剣詩舞と、矢板音頭の舞踊でフィナーレとなりました。

ンでは、塩谷ブロックで全国に名を馳せる伝統芸能「喜連川公方太鼓」の圧倒的な熱演の披露があり、これを見聞きしただけで、十分に参加した甲斐があると感じました。

記念式典では、今年度文化選奨受賞

25年経過の県の文化選奨受賞者の歴史をみると、平成5年度(1993)発足以来の鹿沼市の受賞者は、

*文化選奨

平成16年度

橋本美代子(民謡・民舞)

昭和50年度(1975)か

らの文化奨励賞受賞者は、

*文化奨励賞

昭和50年度

高内 壮介(文芸)

昭和57年度

曾我 芳子(洋画)

昭和60年度

宮坂 健(洋画)

平成5年度

永山彦三郎(小説)

平成26年度

田中 茂(彫刻)

平成27年度

塚原 秀巖(書道)

どのような基準や審査で受賞者が決定されるかは分かりませんが、鹿沼市の人が表彰されることは、私たちの喜びであり誇りになりますから、さらに対象者が出て欲しいものだと思います。

編集後記

今回は、文芸部門の鹿沼史談会・鈴懸短歌会・かぬま川柳会・文化サークル「みちくさ」の四団体に投稿頂きました。また、下野新聞に掲載されましたが、平成最後の歌会始の儀の一般入選者、10人の中に鹿沼市在住、鈴懸短歌会の大貫春江さんが選ばれ、大変な快挙となりました。また、鹿沼市文化協会、木村剛孝顧問「旭日小綬章」受章・布川武男賛助会員「瑞宝双光章」受章・日笠勝子常任理事「民謡功労章」受章となり、31年鹿沼市文化協会新年会並びに受章祝賀会が粛々と行われ、誠にめでたい事が重なりました。

今年は、鹿沼の文化芸術が益々花開く、新しい時代の幕開けとなりますように。

◇編集委員会◇

鈴木 貢 小林 守
前田 成彬 廣田 忠
板橋 和子 若月 里子